

『面接にて』

櫻井優佳

登場人物

乾（いぬい） 女性

村之内（むらのうち） 男性

友枝（ともえだ） 男性

案内役の女性

とある地方の食品会社（支社）の面接室前。椅子が三つ並べられてある。六月の新卒採用試験の日、午後に行われる面接の時間である。

案内役の女性、友枝、村之内、乾の順に三人を連れてくる。

案内役 こちらへお掛けになって下さい。

乾、村之内、友枝の三人、それぞれ椅子に座る。

案内役 ではこれから、午後の面接試験となります。番号と名前をお呼びしますので、呼ばれた方はこちらの面接室に入室して下さい。お待ちして頂く間は、飲食、お手洗い等なすつてもかまいません。他人に迷惑のわからない程度でしたら、私語も大丈夫となっております。ではまず始めに、五十二番の友枝さん、面接室のほうに移動をお願いします。

友枝 はい、（ドアを三回ノックして）失礼します。

友枝、案内役、面接室に入る。

乾、深呼吸をした後にカバンから暗記用の紙を取り出す。

乾 えっと……（紙を隠しながら）はい、御社を志望した理由は二つあります。一つは、えっと、御社は健康食品を主力としていとお伺いしました。なので、さらに発展させていきたいと思志望しました。二つ目は、……二つ目は、えっと……何だったっけ？（紙を見て）ああ、そうだった。はあ、だめだな……。こんなので受かるかな。

小声で面接の練習をしている乾を、村之内が心配そうに見ている。

乾、自分を見ている村之内の姿に気付き、

乾 す、すみません！ ご迷惑でしたよね。

村之内 いえ、とんでもない。あの、

乾 はい、何でしょうか？

村之内 もし良ければ、練習相手になりますよ。

乾 え、いいんですか！ なんだか申し訳ないです。

村之内 それはお互い様です。遠慮なさらずに。

乾 じゃあお言葉に甘えて。(村之内に紙を差し出し) お願いします。

村之内 (紙を受け取り) はい、じゃあ最初の質問です。あなたは何故、我が社を志望したのですか。

乾 はい、私が御社を志望した理由は二つあります。一つ目は、現在御社が主力とされているダイエット食品のさらなる普及と発展、そしてもう一つは、新たにお年寄りのための食品作りを展開させたい、という理由です。

村之内 はい、オッケーです。大丈夫、ちゃんと言っていましたよ。

乾 よかった。本当にありがとうございます。

村之内、紙を乾に返す。

乾 お名前は確か……

村之内 村之内と言います。

乾 あ、私は乾と申します。いやあ、やっぱり緊張しますね。午前中の筆記試験も難しくくて。

でも村之内さんのお陰で、緊張もそれなりになくなりました。

村之内 え！ そうなんですか？

乾 はい、今ここには知ってる人なんていないから、さつきから周りが敵のように見えてしまっ……。だから、村之内さんが話しかけてくれたことで、なんだか仲間ができた気がするんです。

村之内 そう言ってくれてとてもうれしいです。こういう試験は、相手を落とそうとばかり考えていがみ合うよりも、お互いに助け合ったほうが気が楽になりますよ。

面接室の扉が開く

友枝 失礼しました。

案内役、友枝、退室する。

乾 あ、次村之内さんの番ですよ。大丈夫ですか？

村之内 ええ、大丈夫ですよ。お互いがんばりましょう。

乾 はい！

案内役 五十三番の村之内さん、面接室のほうに移動をお願いします。  
村之内 はい。(ドアを三回ノックして) 失礼します。

村之内、案内役、面接室に入る。

乾、気持ちを落ち着かせる。

友枝、ゆつくりと歩を進める。しかし、途中から少しの笑いと涙が出てくる。最終的にはうなだれる。

乾、その姿に驚く。

乾 あの、大丈夫ですか？

乾、カバンからティッシュを取り出し友枝に渡す。

友枝、ティッシュを受け取り椅子に座る。

乾 ええと……どうかされましたか？

友枝 ダメだった。

乾 え？

友枝(独り言のように)ダメだった。今回もダメだったよ。いや、正確には「ダメかもしれない」かな。これで何回目だろう。面接官のあの顔を見るのは。あのうんざりしたような顔。

友枝、深くため息をつき

友枝 ごめん。ちょっと取り乱してしまったよ。

乾 いえ……。

友枝 でもさ、さすがに何十社も受けて、ここまで手応えが無いと、笑いたくなるよ。

乾 そ、そうなんですネ。

友枝 君だつてこうなるかもしれない。

乾 え？

友枝 最近よく聞くじゃないか。「圧迫面接」なんて言葉。僕が受けた会社では、当たり前のようであった。自分をアピールするために考えたものが否定されるんだ。まるで自分が否定されているみたいで辛いよ。それに、

乾 それに？

友枝 この会社の面接も、ひどいものだったよ。圧迫面接はもちろん、参考書に載っていない質問が実に多かった。そうだな、例えば……「あなたの家族は宗教についてどう思っ

ますか」とか。答えられるわけないだろう？ 答えられなかったら、もちろんそこで内定の可能性も低くなってしまう。

乾 そんな……。

友枝 まあ僕は、経験者として助言しただけさ。健闘を祈っているよ。

友枝、去る。

乾、大きなため息をつく。

乾 そうか、そんなにひどかったのか……。急に不安になってきた。私、あと三つほど会社の試験を受けるつもりだったけど、大丈夫かな。これから……。

面接室の扉が開く。

村之内 失礼しました。

案内役 すみません。五十四番の乾さん。

乾、ずっと考えこんでいて返事がない。

案内役 い、乾さん？

村之内、乾が少し変なことに気付く。

村之内 乾さん！

乾、呼ばれたことに気付き、

乾 は、はいすみません！

案内役 乾さん、申し訳ありません。少々お待ち頂けますか。

乾 ……はい。

案内役の女性、面接室に入る。

村之内 乾さん、どうかされましたか。

乾 い、いえ、何でもありませんよ。

村之内 ……そうですか。それなら良かった。

乾 ごめんなさい。心配かけてしまって。

案内役 お待たせしました。五十四番の乾さん、面接室のほうに移動をお願いします。  
乾 はい、分かりました。(ドアを三回ノックし) 失礼します。

乾、案内役、面接室に入る。

友枝が再びやってくる。

友枝 あれ、村之内くん。今終わったんだね。

村之内 友枝、お前何やってるんだ。

友枝 いやー、ちょっと忘れ物しちやっただから、戻ってきただけだよ。

友枝、椅子に置いてある忘れ物をしまう。

村之内 さっきの子に、何か余計なこと言ったのか聞いてるんだ。

友枝 ひどいなあ。僕はただアドバイスをしただけだよ。まあちょっと大げさに言っちゃったところもあるけど、あの子の為になったと思うよ。

村之内 どうしてそんなことをしたんだ。それじゃああの子をただ苦しめるだけじゃないか！

友枝 ……君さ、そんなこと言える立場じゃないよね。君のほうがよくぼどひどいことしているのに。

村之内 はあ？ お前何言って……

友枝 この会社の社長ってさ、お前の親父さんだよな？ 今通っている大学だって親父さんのコネのおかげで合格できたってこと、俺は知ってるよ。今回の試験だって、どうせまた親父さんのコネ使って合格するつもりだろう？

村之内 ……

友枝 うらやましいよ君は。何も考えずに高みの見物ができるんだから。僕やあの子のように努力をする苦しみを味わうことなんて無いんだから。

村之内 ……確かに、俺は大学は裏口入学だ。頼んでもないのに親父はコネを使った。それを知ったとき、悔しかった。大学にいるのが申し訳なくなったさ。だから、今回の就職試験は自力で受けるつもりだ。もし親父のコネがあったら、内定は蹴るようにする。そうすれば、少なくとも皆とは対等に受けられるはずだ。

友枝 利口だねえ、本当に。まあお互い頑張りましょうか。

友枝、去る。

面接室の扉が開く。

乾 失礼しました。

乾、面接室を出る。

乾 あ、村之内さん。今日は本当にありがとうございました。お互い、良い結果だったと思いますね！

村之内 その、そうですね乾さん。それじゃあ、気をつけて。

乾 はい！ 村之内さんも気を付けて。

村之内、去る。

案内役 本日の試験は以上となります。ネームプレートは受付に戻すようお願いいたします。お疲れ様でした。

乾 ありがとうございます。失礼します。

乾、去る。

案内役の女性、椅子を片付けながら。

案内役 はあ、今年は何かパツとしないな。誰が何言ってたかなんて忘れちゃったし。同じような志望理由ばかりで、よく飽きないわね。誰か一人でもいいから、「給料が高いからです」なんて理由言ってくれたら面白いのに……。

案内役の女性、去る。

幕